

<p>1 学校教育目標</p> <p>自ら学び、考え、正しい判断のもとに行動できるよう豊かな人間性を身に付けた心身ともに健康な生徒を育成する。</p> <p>(1)学級・学年や学校での集団生活を通して、市民生活や社会人としての基礎基本を身に付けた生徒を育成する。</p> <p>(2)自己の目標を実現する為、学業や資格取得に主体的・積極的に取り組む生徒の育成に努める。</p> <p>(3)明るく、素直な心を持ち、人を思いやることのできる徳知体のバランスの取れた人間形成に努める。</p>
--

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>学習活動や学級経営・ホームルーム指導を通じた集団・仲間づくりや部活動やインターンシップ(キャリアチャレンジ)・実習・体験活動を通して「わかる・できる喜び・学ぶ楽しさや役に立つ・認められる喜び」を実感させ「一人ひとりが自信を持ち社会に必要とされる・貢献できる喜び」を体験させることを教育の指針とする。</p> <p>(1)学力の向上 (2)生徒指導と心の教育の推進 (3)進路保障 (4)部活動・生徒会活動・ボランティア活動・図書館(読書)活動の促進</p>

3 自己評価総括表		評価基準			評価	成果と課題
評価項目		A:できている	B:概ねできている	C:できていない		
大項目	小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策		
学校経営	建学の精神と教育目標・方針	学級経営への教育方針の反映 保護者との連携の促進	基本的な生活習慣の確立と健康管理や安全指導の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの個性を把握し、学習面・生活面での意欲の向上に努める 連絡網(安心メール)・ホームページ・電話自動受付等を通して保護者と連携を取り合う。 新型コロナウイルス感染症予防に伴う健康観察アプリを導入し、適格な指導を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症により、学校行事の多くが中止・延期やリモートでの実施を余儀なくされたが、個人面談等を適宜行い、生徒一人一人の学習・生活面での向上・充実に努めた。 健康管理が行得た結果、出席率・精皆勤・成績優秀となる生徒も多く、向上がみられる。
	教育環境の整備	教育環境整備を点検し、危険箇所等の早期改善を図る	教室、特別教室の安全点検と補修及び周辺環境の整備・充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 適宜、施設を点検し、危険箇所の補修・改善を行う 	A	敷地内の公道を渡る教室移動も事故無く行っており、施設改善にも十分取り組んでいる。
学力向上	わかる授業への取り組み	生徒の理解度の把握	「授業への取り組みが消極的」以外の生徒の割合90%以上を目指す	各学期ごとに授業アンケートを行い生徒たちの授業に対する評価を確認し、おのおの授業にフィードバックしました。全体的に1学期より2学期、2学期より3学期、授業の満足度は上がりました。	A	今年度は1学期と3学期に授業アンケートを実施しました。1学期末にはクラス、教科によっては不満や熱心に欠ける回答も見られましたが、3学期の調査では不満 850 に対して満足 5280 の回答があり、「授業へ熱心に取り組んでいる」との回答は 94.1%となった。
	学年の取り組み	学習習慣・基礎力の定着と検定等の合格	漢検、数検、英検、朝・夕の課外や宅習ノート、個別指導	総合ビジネス科、および数学科、英語科を中心に徹底した個別指導で意欲のある生徒達に応えました。	A	基礎学力向上への取り組みや、授業や定期考査に向けた取り組みの成果として、全体のおよそ4割の生徒が成績優秀賞の対象となった。また、各種検定の取得や大学等の進学対策でも個別指導や無償課外が行われ、成果を出すことができた。
キャリア教育 進路指導	進路目標の実現	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現につながるキャリア教育の実践と基礎学力の養成 資格取得の推進 教育改革への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 進路講演会やガイダンスを実施し、職業観の育成と適性の模索をしていく中で進路の意識を高める。 社会人として対応できる「挨拶」を含むマナーの向上 オープンキャンパス及び企業見学の参加率100%を目標とする 教育改革における大学入試共通テストや学びの基礎診断などの情報収集に努め教職員および生徒に還元する。 英語5技能評価やPDCAサイクルを踏まえたアクティブラーニングを取り入れた授業改革を検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> LHRの活用や総合的な学習の時間との連携を図り、進路学習に取り組んでいく 各学年、講演・ガイダンスを年3回以上実施を目指すとともに、各行事が有機的に連携するようにする。 e-learning(すらら、スタディサプリ、classi)の活用 進路相談、個別面談の充実 外部講師による面接指導の実施 進路情報の提供 資格取得によるAO、推薦入試の活用 総合探究コースと総合ビジネス科ではインターンシップを通して職業体験を実施 各教育サポート業者からの情報収集や、研修セミナー等に参加し、本校の教育と生徒の実情に合わせた取り組みを検討・模索する。 これまで取り組みを強化してきた実用英語技能検定をはじめとする外部試験を比較検討する。 資格取得の促進と基礎学力向上を目的とする外部試験の導入。 	A	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒、学校の努力により、十分な目標を実現できた生徒がいた。 外部業者、講師によるガイダンス・講演も有益だが、あまり多すぎると教員の力が落ちてしまう場合がある。現在は良好な状態だと思う。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職希望者の減少により、優良企業への就職者が減った。後悔のないように慎重な進路選択を再度促したい。但し、景気の動向に注意を払わなければならない。 奨学金及び学生支援金を保護者に伝えられなかったのではないかな。 総合探究コースと進路直結していないか(プログラミング等)

	一人ひとりの進路目標達成	・個に応じた進路指導の推進	・多様化する生徒の進路目標への対応の推進 ・多様化する入試制度への対応 ・課外、資格対策の充実	①オープンキャンパス等への積極的参加 ②入試傾向の分析と対策の充実 ③課外、模試、学習合宿等の実施 ④校内外の進路ガイダンスへの参加 ⑤組織的な個別指導、面接指導の充実 ⑥小論文・作文指導の充実と負担軽減に取り組む ⑦企業や各種上級学校の情報を早期に知る	A	・小論文対策としてベネッセ等の過去問や日経新聞社説を軸に対策を取るようにはしてみているか？ ・オープンキャンパス等への積極的な参加が見られるが、これまでのように複数の学校と比較が大切であることを言い続けたい。
生徒指導	交通ルールの徹底	交通マナーの向上と登下校時の交通事故防止	登下校時における学校周辺の一列励行と盗難予防の意識を高めるための二重ロックの徹底。また、校舎間における公(市)道の横断の安全性を高める。	登下校時の交通指導と二重ロックの点検を定期的に行い、普段から校舎間の移動に対する注意喚起を行う。	B	・登下校時は交通指導をしているため、自転車での二列並行は指導できているが、学校外については目がゆきとどいていないため、マナーが守られているか気になるところである。 ・上熊本駅で自転車を点検したが、二重ロックについてはおおむねできていた。
	校則に対する規律意識を高める	校則に対する自主的な規律意識の有無	SNSなどのインターネットを介した誹謗中傷等による生徒間の問題を減少させる。	「SNS」や「薬物防止」等の講話を実施し、生徒の防犯意識を高めるようにする。	B	他人の誹謗中傷をするような書き込みや、学校の評価を著しく損ねる画像や動画についてはアップロードしないように強く指導していることと、特に他人を陥れるような密告については生徒部として取り扱わないことにしたため、以前に比べれば事案は多くなかった。しかし、私たちが知らないところでの SNS 利用はまだまだ少なくないと考える。SNS については人権教育と絡めた講話を実施したが、薬物については実施できなかった。
人権教育の推進	職員の人権意識向上	生徒の人権に配慮する力の向上	生徒の人権に配慮する力の向上	校内研修の充実。啓発のための通信を発行する。	B	《成果》 違反質問に関する、「言わない・書かない・提出しない」という題で主催者が作った独自プリントで、全教職員と学びを共有した。3年ぶの先生方から、生徒たちに話せるようなシステムを構築できた。 《課題》 行えたのがこの研修だけだった。人権便りも書いていたが途中で発行していない等、継続的な啓発活動ができていなかった。今年度は郊外の研修等に参加することは充実していたが、校内における活動はできていないのが現状であった。
	生徒の人権意識向上	他を尊重する態度の育成	他を尊重する態度の育成	研修の充実。日ごろの教育活動における指導の充実。	B	《成果》 1年生対象に、生徒部と連携して外部講師を招き『SNS 講話』を行う。その中で、生徒指導の観点も含め、人権侵害につながる危険性を語って頂いた。 《課題》 コロナ感染防止の観点等で、2年生と3年生に関しては計画はしていたものの、中止になってしまった。来年度はだいぶ規制も緩和される見通しなので、それぞれの学年での、人権啓発の実践を行っていきたい。
いじめの防止等	いじめの実態把握	いじめの早期発見に努める	いじめに対する学校としての方針を徹底すると同時にそれらを生徒に周知する機会を設ける。	いじめをしない、させない、そしていじめを許さない学校としての方針を集会等で話す。	B	いじめのアンケートを実施し実態把握を行っている。そこで出てきた数件については、担任に連絡し、各クラスでの対応をお願いしている。今年度は、アンケートの実施時期が遅かったため、来年度は2学期(10月頃)に実施したいと考えている。
	指導体制の整備	各部署との連携を図り、いじめを未然に防ぐことのできる体制づくりに努める。	常日頃から担任、学年主任、そして教育相談、スクールカウンセラー、生徒指導部の連携を図る。	いじめ防止対策委員会を機能させ、指導体制の組織化を図る。	A	学年主任、学年団と連携をとり、クラスや学年の様子を把握するようにしている。特に、気になる生徒、不登校気味、急に遅刻や欠席が増えた生徒などの把握は、気を付けて行うようにしている。 また、登下校時の声かけの際の様子なども気を付けるようにし、気になれば学年主任、担任に連絡するようにしている。
図書館教育	読書活動の充実	読書活動の推進	生徒が主体的に図書館を利用し読書活動ができるよう環境を整える。	生徒のニーズに応じた書籍を仕入れる。定期的に企画を考え、図書館に興味を持ってもらえるようにする。	B	読書活動の推進につながるよう、希望するクラスには学級文庫として15冊～20冊、図書館から貸し出した。各学期の終わりにほんの内容を入れ替えるようにした。図書館に興味を持ってもらう活動はあまり行えなかったのが課題となった。

	各教科との連携	蔵書に偏りなく豊富な資料の確保	どの教科の授業でも、調べ学習等で図書館を利用できるように、幅広い資料をそろえる。	現在、図書館にある資料が古くなっているかを確認し、必要に応じて資料の更新をする。	C 教員よりスキルアップにつなげるために検定に関する図書購入の希望があったので、購入した。しかし、そのほかの新規の図書購入について吟味する時間がとれず、前年度に比べて新規の図書購入ができなかったのが課題となった。
学校保健	心身の健康に興味・関心を持ち、主体的に健康で安全な生活を送ることができる生徒を育成する	心身の健康への興味関心の向上と、健康管理・傷病予防の為に実践力育成	①生徒が自身の健康状態を把握・保持増進する機会を設ける ②心身の健康に対する興味関心の向上と正しい知識の習得 ③生涯にわたり自他共に健康で安全な生活を、主体的に送るための知識習得や自尊心向上を目指す	・保健調査票や健康診断の結果などをもとに個別指導・校内外連携を行う ・保健室来室時、再発の予防や適切なセルフケアの方法を指導する ・配布物や掲示物等を活用し、季節に応じた保健便りの発行及び校内掲示物の工夫を図る ・生徒保健委員会活動を通し、健康に関する情報発信の機会を設ける ・生徒対象の普通救命講習(修了証の交付、講師:消防署)を年1回実施 ・外部講師等による講演を実施	B ・保健調査票や健康診断結果を基に生徒へ個別対応を行い、必要時には教職員 ・保護者との連携を図った。また、定期健康診断の事後対応として、治療や精密検査等が必要な場合受診勧告し、受診結果に応じた対応を行った。今後も学校検診後の受診率向上を目指し、教職員や保護者との連携を取りやすい関係を築いていくことが求められる。 ・体調不良や負傷等で来室した生徒に、それらが生じた原因や背景・予防についても一緒に考えながら対応するよう心がけた。しかし複数来室時は教育的働きかけができない場合もあった。今後はセルフケアや予防の観点から、より生徒が理解できるよう、わかりやすく簡潔な説明を意識していきたい。 ・保健室前掲示板には季節に応じた写真社新聞の記事やポスターを掲示し、生徒の健康への意識向上や、学びが深まるよう働きかけた。次年度は保健便りや掲示物の選択等に力を入れ、生徒が正しい健康情報に触れる機会を増やしていきたい。 ・今年度の保健委員会はほとんど活動できなかったため、次年度はより生徒が自主的に活動できるよう組織作りを行いたい。 ・感染予防の観点から普通救命講習は実施することができなかった。次年度は実施できるよう働きかけたい。 ・2年看護科を対象に、学校薬剤師による薬物乱用防止教育講話を行った。次年度も継続して取り組みたい。
	学校環境の整備を行い、美化意識の向上を図る	環境美化の推進	①清掃指導の徹底及び環境美化の意識を高める活動の推進 ②法に基づいた学校環境衛生の維持管理及び改善	・生徒整美委員による美化コンクールを学期ごとに実施 ・掃除用具の定期的な点検及び整備 ・床のワックスがけやカビ取り等日常清掃では対応が難しい部分の清掃 ・学校薬剤師の指導に基づき、環境検査・環境整備を実施し、改善を図る	B ・年度末に掃除用具の点検を行い、筈の交換等適切な対応を行った。 ・整備委員会による美化コンクール等は感染対策の観点から中止としていたが、今後取り組みを再開予定。 ・対物用消毒シートを配布し、掃除等での活用を促すことで、感染対策及び校内美化の意識向上を図った。 ・感染対策の一環として、校内に手指消毒液を設置。また、掲示物等で感染予防活動の推進を図った。今後も専門家の意見を参考に継続的対応が必要となる。 ・床のワックスがけ等、日常清掃が難しい部分に対しては、業者委託を行い対応した。 ・例年行っている環境検査を始め、感染対策関連についても学校薬剤師の指導助言をもとに対応を行った。

4 学校関係者評価

○保護者からのご意見で、特に改善したほうが良いと思う項目について

- ・教科により満足できない。もっと分かりやすい指導をしてほしい。
- ・校舎間の移動(公道を渡るため)時の安全対策。不審者に対する防犯対策。
- ・コロナ禍中で学校行事もなく学校の様子が分からない。行事に親として参加できていないことが残念。そのような場を作ってほしい。・・・今年には作ってきたい。
- ・女子トイレがいつも混雑している。・・・今年初めて意見が出てきたのではないか。
- ・修学旅行には行かせべきであった。・・・延期もして検討したができなかった。
- ・大学共通テストと学校の学年末テストの日程が重なっているのは進学校ではありえない日程で驚いている。・・・特進コースは、学年末考査をしていない。
- ・夏場のクーラーの温度差が異常。冷え過ぎ。・・・コロナ対応で窓を一部開けていること、夏場の異常気象のため、温度設定は各教室で設定していた。しかし、コロナが5類に変更になるため、事務室より温度を管理していく予定である。

評価委員より

・生徒指導事案で、深夜徘徊についてはほとんど女子だったか？

ほとんどが女子生徒であった。暴走バイク見学も女子であった。SNS関係も女子で、自分たちだけしか見ていないから大丈夫だと思っている。ほとんど、保護者がそういったことを知らない。1年次にはSNS講話もしているが、生徒に事の重大さが伝わっていない。

・後援会活動は今年はどうであったか？

コロナで、やはり体育祭も文化祭も何もできなかった。今年度、新たに活動再開したと聞いて安心した。

・小学校のように、通学時間の学校周辺道路の車両進入規制はできないものか？

過去に、何度も警察に問い合わせたが、法規制の問題もあり「できない」との回答であった。横断歩道についても同じ回答で駄目であった。いずれ、新校舎を加寿美の庭に建設する時が来たら、1・2号館と連結していくことを考えている。手続きは大変であるが、可能性はある。

・最近の生徒は昔と比べて品が良くなったと感じている。

・熊本市内の中学校の現在の状況報告

昨年度、中学校生徒指導連盟と一緒に問題事案対応をする中、市役所裏のセブンイレブンが問題のある中学生のたまり場となっており、非行の激しい子については、広域学警連を立ち上げ対処。ある郡部の中学校で、問題行動の生徒が卒業しても、下級生に波及しているため、なかなか落ち着かない状況があるとの報告。この状況には、保護者の認識が甘い事や中には生徒指導の先生が甘いことも要因の一つ。先生に不良傾向の強い（InstagramやTikTokで頻りに名前を出てくる）子どもと関係があることを聞くと、「今は問題ない」ということだったが、夏休み後に問題発生し退学し、今も問題行動が続いている。このようなことから、保護者やInstagramなどで確認できた情報を、生徒への指導につなげてもらいたい。特に担任の先生が、休み明けの髪色や顔や行動のちょっとした変化に気づき、それを先生方で情報共有して子供に対応してもらいたい。肥後っ子シグナルに少年犯罪の増加傾向が掲載されている。(14歳未満の万引き事案増加)

・今年度、交通事故やいじめ事案はあったのか？

交通事故は把握していない。いじめについても全くなくはないと思うが、担任及び学年主任などで対応したことを把握している。自社でも運転の未熟な社員が多く、新入生も慣れない通学路を通ってくるため、特に4・5月は交通安全の強化を要望。また、部活動における本校生徒の活躍および看護師国家試験の合格率アップを期待された。また、学校も、一日でも早くコロナ前の状況に戻り、体育祭や修学旅行・授業や部活動などに頑張してほしいとの要望であった。

・自転車のヘルメット着用状況はどのようなか？

色やデザインもあるが、命を守る観点からヘルメット着用するように指導してほしい。朝の通学状況を見てもまだ着用している姿を見えていない。私学の校長会でも学校で強制することは厳しく、努力目標という意見であった。生徒・保護者に対しての命を守る啓蒙をしていくことを確認。

5 総合評価

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の波があり、対応に苦慮する状況となった。従って、学校行事は縮小・延期や中止も余儀なくされ、授業や実習をはじめ、さまざまな活動に支障をきたす事となった。それゆえ、学校の様子が見えない、親として参加できていないことが残念であるし、参加できる場面を工夫してほしかった等のご意見をいただいた。学校運営はじめ、学習・進路・生徒指導等ではある程度できているとの評価をいただいたものの、学習指導方法やICT教材の工夫による分かりやすい授業づくりの改善の必要性とともに、家庭学習時間の確保に向けた取り組みについては次年度の課題として残る。また、コロナ禍にもかかわらず、生徒の出席・進級・卒業率や進学・就職率や検定合格率等も高いレベルで維持できており、改善・向上していると考える。今後も指導・充実に努めていきたい。

6 次年度への課題・改善策








学校運営に関しては、現在の教育方針に基づき、学習・進路・生徒指導の充実に向け、全教職員で協力して取り組み、生徒の目標と自己実現の達成のための支援・指導の実践と個性の把握に努め、成長につなげていきたい。また、学習指導の充実とICT教育環境整備を行い、生徒の心身共に健康で成長の促進に努力していくこととする。

令和5年度 学校評価（自己評価・関係者評価）について報告します。

令和5年5月12日

学校法人 加寿美学園
熊本中央高等学校
理事長 竹下 英 様

熊本中央高等学校
学校長 池田 廣

<p>決裁</p> 	<p>理事長 竹下 英</p> 	<p>学校長 池田 廣</p> 	<p>副校長 塩田 顕一郎</p> 	<p>教頭 古澤 哲</p> 	<p>事務長 柴田 徹</p> 	<p>事務次長 橋本 孝</p> 
---	---	---	---	---	---	--